

みなす 講演会

セミナー終了後の情報交換会への参加と小テストを加えて、研究方法論（基礎・応用）の授業に出席したとみなす講演会とします。これらすべての時間を受講した大学院生に受講印を押印します。

第2回 教員による 研究紹介セミナー

9.25 (月) 17:00 - 19:10
基礎研究棟1F大学院セミナー室

17:00 - 17:50

川合智子
細胞生理学 助教

生殖システムを司る新たな 主要メカニズムの解明と生殖医療への展開

男性の生殖細胞である精子と女性の生殖細胞である卵が受精して、次の世代へ命(種)を継承する生殖システムを解明する研究に取り組んできました。特に、男性・女性の生殖器官の内部環境因子、加齢、力学環境、栄養・偏食、エピジェネティック、感染などが、精子の形成・成熟、卵の成熟、受精・初期胚発生に与える影響を、多様な機能解析手法を用いて実験し、生殖医療へ応用してきました。

本セミナーでは、卵の成熟に重要な卵胞の発育障害メカニズムの研究が、加齢による妊娠力低下や卵巣凍結保存法へと繋がった研究を紹介させていただきます。また、最近、新たに取り組んでいる精子の成熟に関する研究についても少し紹介させていただきます。

17:50 - 18:50

高尾知佳
組織機能修復学 講師

幹細胞研究が面白い： 基礎研究から病態解明や治療を考える

「幹細胞」には大きく2種類に分類され、各組織特異的な再生に携わる組織幹細胞と、私達の身体の中にある細胞を作り出すことが可能な多能性幹細胞に分けられます。幹細胞研究は1900年代後半から研究が進められており、造血幹細胞をはじめ、ES細胞やiPS細胞と今なお多くの研究が進められています。これまで私は産婦人科領域の研究を進める中で、子宮幹細胞が間葉系幹細胞の特徴を示す細胞であることがわかりました。このことから間葉系幹細胞に興味を持ち、岡山大学での研究を始めました。当研究室では、ヒト多能性幹細胞から間葉系幹細胞の特徴の一つである軟骨分化に特化した肢芽間葉系細胞の開発に成功しました。

さらに肢芽間葉系細胞と、再生医療へ応用が期待される細胞シート技術を組み合わせた軟骨細胞シートの開発にも成功しましたのでご紹介させていただきます。

どなたでもご自由に参加できます

<お問い合わせ>
人体構成学 川口綾乃
akawa@okayama-u.ac.jp

18:50 - 19:10 情報交換会